

図書館員のひみつの本棚 第196回

今月は、けんかはどう解決したらよいかを、楽しく気づかせてくれる作品を紹介します。

『けんかのたね』

ラッセル・ホーバン／作 小宮 由／訳 岩波書店 2022年 ¥1300(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★☆☆ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

仕事でくたくたになったお父さんが家にかえってみると、犬が猫を追いまわし、4人のこども達も大げんかの真っ最中。一番上の姉に話を聞くと弟のせいだといい、弟は妹のせいだ、とみんなが人のせいにした末に、猫はねずみのせいだと詰め寄ります。はたしてねずみは、なんと答えるのでしょうか……。

<子どもに手渡す時のポイント>

子ども同士のけんかという、子どもたちにとって身近な題材を取り扱っていて、けんかの原因が人から責められた時に、その意見を受け入れられない心にあると教えてくれる作品です。

しかし、全然説教じみた感じはなく、“人のせい”が数珠つなぎで続いていく面白さ、どんでん返しがある痛快さがあり、最後に落語のようなオチもあって、楽しく読める作品です。

読んであげるなら幼稚園の年長さんくらいから、自分で読むなら小学校低学年から中学年ぐらいまで楽しめます。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。